



妙教寺だより

第 28 号

平成 22 年 元旦

敬 頌

新 禧

年 頭 の ご 挨拶

妙教寺 第七世
元寇園教会 第五世

順信院日薫
荒木英知

「今正月の始めに法華経を
供養しまいらせんとをばしめす
御心は、木より花のさき、池よ
り蓮のつぼみ、雪山のせんだんの
ひらけ、月の始めて出づるなるべ
し。」

(重須殿女房御書)

初頭の宗祖の遺訓

宗祖は、「いま、あなたが、
正月の始めに法華経を信じ、
ご供養申し上げようとなさ
る真心は、素朴の樹木に美
しい花が咲き、汚泥に蓮華

がつぼみをつけ、深山の梅檀
が雪を割つて育ち、月が始め
て山から出るように、あな
たご自身が、妙法五字を受
持すれば自然に、ご本仏の
因果の功德をもたらすでし
よう。」と述べられ、一年の
初頭である正月を迎えるに
あたり、心あらたにお題目
修行をしていくことを誓願
すること、新年から始ま
るこの一年、自らが仏になる
という善行(果報)に対する、
大事な因行(原因)と受けと
めなければならぬと、新
春の心構えを説かれており
ます。

二〇一〇年の初春を迎え、
法華経に出会った「ありがた
さ」をかみしめながら「どう

かお釈迦様の説かれた第一
のすぐれた教えを信じ習い
きわめることができますよ
うに」(開経偈)と心から願
を立て、庚寅歳こそは、魂の
入れ替えの出発点として檀
信徒護持会会員の皆さんは
じめ、世界中の人々が心の
安らぎと平和な社会である
よう、お祈り申し上げます。

第七回忌奉行の御禮

さて、昨年、妙教寺中興
第五世・元寇園教会第四世
順忠院日貫(英忠)上人が
ご遷化され、七年目を迎え、
十一月十八日に遺弟近親
者により、第七回忌祥当法
要が相営まれ、十一月二十
二日(日)には、上人ご生前
の御遺徳を偲び、多数の檀

信徒の皆様より、感謝のお
塔婆を建立してご報恩法要
が奉行されました。

特に、順忠院日貫上人第
七回忌の法要の儀を、當山
の干与人・福岡市徳永寺住
職永江尚幸僧正に御導師
を頂き、県内ご寺院各聖、
順門会法縁並びに檀信徒の

皆様、また、日頃、親しくご
厚誼をいただいております
皆様のご列席を賜り、厳修
することが出来ましたこと
は、皆様方のご厚志の賜物
と心より御礼申し上げま
す。

この度、日貫上人をば、
往うを追い想い出を振り返



注・写真前列左側日貫上人の御師僧、東公園銅像護持教会主管 藤山英燐上人
同じく前列左から三人目、身延山久遠寺第八十四世 深見日円法主祝下
後から傘をさしかけておられる日貫上人（東公園に於いて）

る、特別寄稿を各聖また各
位より、「追慕の念い」の一
章を賜り、感慨無量の想い
を禁じ得ず、発行出来まし
たことは、編集に携れた皆
様のご努力に甚深の敬意を
表すものです。

日貫上人を想う

いれば、上人幼名は忠
（すなお）薙髪して英忠と改
名され、順忠院と号す、日
貫はその名なり。大正五年
三月十八日 福岡県小郡市
三沢に於いて、父耕太郎・母
アキの二男三女の次男とし
て生る、縁ありて 昭和十六
年十一月に英子と結婚、仏
縁熟し、昭和二十七年四月
二十八日に三十七歳にして
天眞寺開山・東公園銅像教
会主管藤山英燐上人につい

て得度され、爾来、師範上
人の膝下に在りて、その薫
化を蒙ること四ヶ年、東公
園銅像教会で精励に心魂を
傾け、仏道を求め、師厳道
尊の道を示されたのです。



七回忌参列の皆様

その間、家庭運営は、妻
英子女史の双肩にかかり、
艱難辛苦の幾多の悲悩あれ
ど、夙に三寶を尊信し、その
温容助力はまことに他に殊
なると聞き及ぶ。

昭和三十一年七月二十八日、師範英燐上人の推挙を得、當山第五世住職を継承することとなり。

日貫上人の偉業

時恰も戦後激動混乱の極に達し、世相荒廃に臨み専ら檀信徒の教化育成に注ぐ、頽廢の寺門を運営するには困窮の極に達し、然れども山門荒廢に臨まれて意を専ら境内地整備の諸事業に、盡粹されること四十九年の永きに渡り、妙教寺の発展に寄与され、また、



昭和 33 年大荒行堂初行
成満された日貫上人

や日本仏教
世界仏教徒
会議等の各理
事の要職を歴
任されるや、
四十一年、こ
れらの社会

昭和三十三年二月、日蓮宗大荒行堂第初行成満され、爾後、専ら自行化他に精勵し心魂を傾け、宗内外の勤役も多く、昭和三十一年専任布教師に任じられては布教活動に精進し、昭和四十四年五月福岡県協議委員副議長、昭和四十九年五月社会福祉教化事業協会副会長に請われ就任され、さらに、昭和四十九年には福岡県仏教連合会会長就任以来四期を勤められ、西日本宗教懇話会会長、また財団法人全国青少年教化協議会福岡県会長、宗教連盟理事長

教化活動の重責を荷い、本化の教風宣布に活躍されたことは、みなさまが承知の通りです



当山に入山された頃の
日貫上人と坊守さま

青少年育成会発足

また、日貫上人は、寺門丹精に於いても、お題目の拠点拡大をはかり、とくに青少年育成と宗教的社会教育の向上の教宣流布に活躍し、檀信徒の教化育成に力を注がれ、その布教活動は多岐に亘り、地元地域及び檀

2010 年（平成 22 年 6 月 27 日予定）

清正公第 400 年遠忌法要奉行

2021 年（平成 33 年）

宗祖日蓮大聖人御生誕 800 年

信徒の青少年を対象に林間学校やブラスバンド活動・各種教室・錬成道場等の文化サークルを実施され、諸活動を通じて



発会式で小山先生指揮によるブラスバンド演奏
(旧本堂にて)

社会教育を重視し青少年教化に力を注ぎ、當山青年会や青少年育成会による社会福祉活動への参加を主宰せられ、社



本堂に於て朝のお勤めをする育成林間学校参加の生徒たち

会への教化活動に邁進されながら、絶えず宗門や寺門の興隆に心を砕いて頂きました。

法華経王国建設

その間、元寇園教会における法華経王国建設事業に対し、平成十年より十一年に亘り、国立公園志賀島・元寇園教会周辺の土地など五千坪を確保せられたのです。

混乱の時代をたどる今こそ、正法である法華経を中



玄界灘を望む志賀島元寇園教会の境内地

心とすれば、国家も社会も国民も私達も安泰となると「立正安国」への思いを覚り、平和でみなが成仏安心して暮らせる社会づくりを志す人となり、私たち一人ひとりが、蓮の花のように菩薩行を糧として、身近なところから社会浄化に努める人を育てていく養成道場として、理想郷「法華経王国」の実現を目指されていきました。

しかるに、その事業緒につくも、上人逝かれ、その想



元寇園教会・八大龍王塔前にて

い、その夢を有縁の諸人に託くされたのです。

願くば、これからは、上人の誓願報恩の心を受継いで、大恩に報い、法華経成仏を実現するため、法華経修行道場建設や信行を根本とした行・学の二道に励み、そのつとめを果し、法華経信仰を貫きたいと自らを戒めています。

日貫上人の法功

更に、日貫上人の法功を述べるならば、妙教寺においては、昭和四十九年の「宗祖御聖誕七五十年記念」に際し本堂・庫裡の改築・境内地庭園整備や昭和五十六年の「宗祖報恩七百遠忌記念事業」に臨みては、妙教寺ビル・檀信徒会館の建設をはじめ、平成元年の「立教開宗七五十年慶讃記念

事業」として本堂納骨堂・庫裡の増改築を完成落慶をみる。

その後、平成五年十一月、大聖人銅像や山門妙法塔碑建立、平成七年十二月、本堂会館の空調換気設備工事を行われ、當山の発展に寄与され、現在の妙教寺の隆昌のあるのは承知のとおりです。

また、別院・元寇園教会においても昭和五十七年より昭和五十九年の間、「宗祖報恩七百遠忌記念」として供養塔の建立・本堂・庫裡を建築、及び境内地庭園整備などに尽力される。

在山、四十九年にわたり大なる足跡を残され、宗門は上人の宗門・寺門及び社会教化の偉大なる功績に酬ゆるに、平成二年一月に「日蓮宗管長表彰」を授与せられたのです。

妙教寺及び別院・元寇園教会の内外を整備莊嚴し、



日蓮宗管長からの表彰状

これらの浄業の達成を見るに、寺觀を一新されたのです。

妙教寺住職として入山されて、山門の荒廢に臨み、母英子と法嗣日賢上人と一心同歸の如く、精進し、意を専ら寺門興隆に注ぎ、檀家信徒のお力を賜り、止暇断眠され、諸事業に、盡粹されること永きに渡り、當山の発展に寄与され、日貫

上人の護法丹精は実に止むるところを知らざるが如し、これはまた、総代檀信徒各位の異体同心協力一致の致すところで、「中興の祖」として両山の歴史に銘記せられるところです。

身軽法重死身弘法の教え

上人は、資性温順にして菩提を求めては、慈悲の心を持ち、忍辱の衣をまとい、仏となつて法を説くことを示され、道念極めて堅く、弟子をして敬いの心を起こさしめる師であられ、外にあつては、檀信徒の病悩を救い、衆苦を癒し、その信望を集められ、常に寛喜の心を起こさしむる人で、信徒育成衆庶善導の実を挙げ、まさに、実践躬行で「身は軽

く法は重し、身を死して法を弘む」の經文を色読された恩師上人であられた。

朝霧暮雲を臨み、自受法樂の境に入らんと欲するとき、平成十二年八月十二日、當山法嗣日賢上人 五十七歳で突如として遷化され、八十有五を迎えし 上人の寂寥を察するに胸迫るものあり、而るに、上人、齡米寿を越え、氣力なを堅固にすぐれ、その重責を担い、いよいよ邁進されんとするとき、平成十五年八月頃より四大不調となり、療養に勤めしが五蒞の力弱まりて、十一月十八日、忽然として化を他界に遷さる、まことに痛恨の極みなり、時に上人世壽八十八歳で図らずも病に倒れ、その実現を見ることなく遷化せられたのであります。



甲冑姿の清正公立像
(肥後・本妙寺)

日貫上人の教訓

このたび、日貫上人第七回忌を迎えるにあたり、弟子一同、心を深くして師をば往うを追い、情を遠くして化を逐えば、追慕の念い尚、止みがたく、悲哀の情禁ずることあたわず、只、感慨の情を得るのみであり、日々重れば、上人の偉大さばかりを感じるばかりです。

想えば、師匠は、日頃、私どもに(乙御前御消息)「いよいよ強盛の御志あるべし。氷は氷より出たれども氷よ

りもすぎま(凄冷)し。青き事は藍より出たれどもかさね(重)れば藍よりも色まさる。同じ法華経にてはをはずれども志をかさぬれば、他人よりも色まさり利生もあるべき也。」と、法華経への信仰も又、信心の積み重ねによつて、他の人よりも優れたものになり、御本仏の御守護や諸天のお計らいによつて利生がより多く頂け、現実にあつてもらえるのだと、厳しくご教示され、救いの条件は唯一つ、「志を重ねる」事、「お経を読む」事、「功德を積む」事、「仏法を弘める」事を、

いつも戒めておりました。

また、日蓮大聖人のお言葉にもあるように、「内には弟子ありて、甚深の義を解り、外には、清浄の檀越ありて、仏法久住せん」と、遺訓を体し、皆様と「異体同心」して、「お題目の心」を一人でも多くの人に伝え「お題目の輪」を弘めることのできる「弘通活動」の志をふるい起こし、以後、益々、菩提寺である「妙教寺・元寇園教会」が隆昌するように、新たな歩みとなるように精進しなければならぬと存じます。

次の世代へ伝える

さらに、私どもが、数年以来、志しております、「宗祖御降誕八百年記念や清正公御入滅四百年」の慶節

をお迎えるとき、宗祖や清正公の御遺徳をお慕いする報恩行として受けとめて、次の世代へ伝えるお題目布教の道場として、僧俗共に、益々の信心増進あらんことを願うものであります。

今後は、これまで受けた薫陶や、師匠のお教えを守り、檀信徒の皆様のご支援とご協力を賜り、心一にして、妙教寺・元寇園教会を興隆していくことが、報恩の道として、これからも、精進していく覚悟であります。

清正公四〇〇年遠忌

此の度、妙教寺は、本年、平成二十二年六月二十三日、慶長十六年(一六一一年)に肥後本妙寺にて卒去された「清正公四〇〇年遠忌」の祥会をお迎えします。

清正公は、治水・灌漑等、数々の事業で人民の暮らしとお題目信仰を旗印に平和を守られ、清正公の偉大な法華経信仰の行者として、お題目修行の足跡や功德を残されています。



当山守護神堂に安置されている清正公坐像

清正公卒後も、民衆の心を捉え、自ずと徳が顕れ尊崇の存在に、「清正公大尊祇」として神化し、人々の信仰を集められた御遺徳は郷土の歴史に輝き、法華経を

守護する善神として全国的に崇拝の対象となられております。

これからの慶讃事業

當山の香華道場由緒をみれば、御清正公さま菩提寺・旧本山・発星山本妙寺清正公大尊儀の応護を賜る縁由により創立開山され、「春日原のお清正公さま」又、「三沢のお清正公さま」と、皆さまから親しく帰依されて、清正公信仰の中心の地として現在に至っております。

その清正公の四〇〇年遠忌を迎えるに当たり、肥後本妙寺では、清正公の永鎮の霊地、そしてその御威光

御遺徳の顕彰するため「御廟所並びに仁王門改修」報恩記念事業が計画されています。（本妙寺復興趣意書参照）



清正公をお祀る本妙寺御廟所

よって、妙教寺も「清正公」への御報恩謝徳の誠を尽くすために、肥後本妙寺復興の寄進支援と當山独自で御遠忌法要を厳修するとともに、特に、宗祖日蓮聖人公ご入滅八百年や加藤清正公ご入滅四〇〇年の「報恩記念事業」として、「清正公

第四〇〇年御遠忌法要奉行」や、その「八〇〇年慶讃委員会」の設立」などの懸案諸事業を推進して、忍難慈勝の大恩に報い信仰に精進し、日蓮宗の信徒のつとめを果たしたいと思います。

尚、當山の「清正公第四〇〇年御遠忌法要」（平成二十二年六月二十七日（日）施餓鬼会時に予定）執行については、ご本仏さまの慈悲と智慧をいただき、総代護持会役員会に時を計りご相談申し上げ異体同心し邁進したいと存じます。本年も、護法護持のため、檀信徒各位の一層のご支援ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

南無妙法蓮華経

各会役員挨拶

妙教寺筆頭総代

村上 卯三

平成二十二年の新年を迎え、妙教寺檀信徒御家族の皆様には、御健康で各家の御繁栄に御尽力の事とお察し申し上げ、お目出度うございます。



御宝前には各方面から、お塔婆建立生花の御供養が寄せられた。

旧年平成二十一年は、妙教寺のお施餓鬼・祈禱祭、寺の諸行事には檀信徒各家の皆様のお参詣を賜わり厚く御礼申し上げます。

各家の霊界におられる御先祖さまの喜びの姿が目につくかぶ想いが致します。

去年は、妙教寺先代住職順忠院日貫上人様の第七回忌大法要が執り行われました。

各法縁関係の御寺院様が



日貫上人第七回忌に於て挨拶される村上筆頭総代

多数御参詣下さいました。

本堂には、たくさんのお塔婆や生花がお供えされ、檀信徒の皆様方におかれましても溢れんばかりの御参集を戴き、又、当山干与人であられる福岡組参事 早良区徳栄寺 永江尚幸上人御導師の下、式衆に西筑組参事 宗像市妙経寺 高寄泰道上人、西区寶珠寺 赤津悦史上人により、法要を執り行う事が出来ました事、又筑後組参事 久留米市妙正寺 田中潮佑上人の干与人挨拶等を



七回忌法要で焼香される檀信徒の皆様

新年明けましておめでとう御座います

平成二十二年 寅歳元旦

妙教寺 筆頭総代

護持会会長 村上 卯三



賜わり、厚く御禮を申し上げます。

この法要を機会に、皆様の菩提寺である妙教寺が益々発展して行きますよう、護持会役員一同、より一層努力してまいります。

来る、平成三十三年、日蓮聖人ご生誕八百年の慶事を控え、本年度は、加藤清正公ご入滅四百年の祥当年の諸事業の推進の年となります、本年も皆様方の変わらぬ御理解御協力を賜わりますようお願い申し上げます、簡単ではありますが年頭のご挨拶とさせていただきます。

最後に、今回、第七回忌をお迎えした日貫上人又、先に亡くなられました元寇園教会第三世・妙教寺第六世 日賢上人に対し、報恩感謝の心表す一つとして、志賀島元寇園教会本堂へ六角型人天蓋

を家族と共に奉納させていただきます。

合掌

妙教寺婦人会会長

古賀 静枝

新年明けまして

おめでとうございます。

平成二十二年寅歳を迎え皆さんの益々のご健勝をお祈り申し上げます。

旧年中は婦人会会活動にご協力頂き心より御礼申し上げます。



団扇太鼓を叩いて唱題行をされる古賀会長

本年は恒例行事に加え妙教寺の御守護神さまであられる清正公様（加藤清正公）の四百年遠忌を迎え、当山においても記念事業が計画されております。

婦人会といたしましても、皆様と共に力強くお題目をお唱えし無事円成出来ますよう、協力していきたいと思ひます。来る一月二十四日は、恒例の寒修行（お題目修行）を行います、皆様と一緒に唱題行をし、御宝前から周りいっばいに「南無妙法蓮華経」が響き渡り、日蓮聖人が掲げられた立正安国論の中の「三界は皆仏国なり」「十方は悉く宝土なり」の世界に近づき人心の乱れた殺伐とした世の中を少しでも浄化し、昨今の不況を乗り越え、全ての人が明るい未来を築き、住みやすい世の中に、



お会式花作りをされる古賀会長

近づけばいいと心から思ひます。

たくさんの方々にご参加頂きお題目修行をして頂きたいと思い、昨年、婦人会より団扇太鼓を五張、奉納させて頂きました。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

最後に私自身、ご縁のある皆様方に支えられ今の私があります事を念頭に本年を生き抜いていきます。皆様よろしく願ひします。

南無妙法蓮華経

妙教寺信行会会長

植村 俊親

二千年庚寅の新春を迎え、法華經の真髓を信じ、益々信仰を押し勧めたいと願ひ、皆様と共に妙教寺発展のために邁進してまいりましょう。

「御妙判」

『中興入道御消息』にいわく
去ぬる幼子のむすめ御前の十三年に、丈六卒塔婆をたてて、その面に南無妙法蓮華經の七字を顕しておわしませば、北風吹けば南海の魚族、その風にあたりて大海の苦をはなれ、東風来たれば西山の鳥鹿、その風を身にふれて畜生道をまぬがれて、都卒の内院に生まれん。況や、かの卒



星祭りで挨拶される植村会長

塔婆に随喜をなし、手をふれ、眼に見まいらせ候人類をや。過去の父母も、かの卒塔婆の功德によりて、天の日月の如く浄土を照らし、孝養の人ならびに妻子は現世には寿を百二十年たもちて、後生には父母とともに、靈山浄土に参り給わん事、水澄めば月うつり、鼓を打てば響きのあるが如しと思しめし候え云々。

この御妙判の如くに御前様の七回忌には卒塔婆を信行会も供養させて頂きました。



立正安国論奏進 750 年大会に参加された植村会長

『妙一尼御前御返事』にいわく
夫れ、信心と申すは別にはこれなく候。妻の夫をおしむが如く、夫の妻に命をすつるがごとく、親の子をすてざるが如く、子の母に離れざるが如くに、法華經・釈迦・多宝・十方の諸佛菩薩・諸天善神等に信を入れ奉りて、南無妙法蓮華經と唱えたてまつるを信心とは申し候なり。
ご教示の如く、信心を強くして、まいりましょう。
南無妙法蓮華經

御祝い・法事などの引き物、ご進物・ご贈答に

しよ子本舗吉野堂 のお菓子を御愛用下さい。



桜ひよ子

福岡

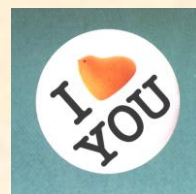
限定販売

1月～4月頃
発売予定

名菓 しよ子 大野城サティ店

大野城市錦町4丁目1-1 大野城サティ1階

TEL・FAX 092-592-2126



順忠院日貫上人第七回忌に寄せて

妙教寺正干与人

久留米市妙正寺住職

田中潮佑

私が妙教寺様にお伺いするようになったのは、昭和五十年頃の日蓮宗青年会の活動の為でした。当時妙教寺様は、青少年育成活動が盛んで、実に新鮮で印象的でした。時折、久留米まで車でおいでになり「ちよつと来ましたよ」と私の師父と親しくお話をしていたらうしやいました。

福岡県佛教会の会長の任に当られた時、会議に出た私は、頼もしい日貫上人の姿でした。

社会への働きかけを大



七回忌法要で干与人の挨拶をされる田中上人

切にされていた上人は、デパートでの花まつり（釈尊降誕会）等、大切と思われる行事は、手出しをしても行いたいと、強い信念と活動力で多くの協賛者を生み出しました。

このお師匠様に訓育された英知上人も又、その強い信念と実践力は多くの僧侶の認めるところです。

日貫上人、英喜上人等の



七回忌法要で導師を勤められる永江上人

順忠院日貫上人第七回忌法要の導師を勤めさせていただき光栄に存じます。

妙教寺副干与人

早良区徳栄寺住職

永江尚幸

合掌

先師の御教えを大切に、僧俗・寺檀、異体同心に力を合わせて、妙教寺の護持運営に尽くされますようお祈り申し上げます。

御住職として永年に渡り両寺院の発展に盡力し、長寿で御遷化されました。思うに日貫上人は法華經弘教に熱心に精進されました。

私が福岡の徳栄寺住職になりました昭和四十年、英喜上人と私の妻が身延山大学の同級生の縁で可愛がっていただきました。当時日貫上人は如何にして布教するかと考えられ、日蓮聖人銅像護持教会に布教センター建設し、宗務所を併せて若い御上人方を育てたい計画を示された時、何と斬新で展望あるかと賛同したのが昨日のように感じます。

現在、宗務所が考えている布教センターを四十余年前に日貫上人が考えられた事は如何に御上人が

先見があったかと思うと
感心します。

其の後、英知上人が大学
を卒業されるや、私の兄弟
子、山鹿圓頓寺の法嗣とし
てすぐさま御返事をいた
だいたのも日貫上人の決
断力ではなかったでしょ
うか。圓頓寺の発展は日貫
上人、英知上人、圓頓寺の
皆様の為、宗護法の念では
ないでしょうか。

今般、英知上人が妙教寺
の住職として日貫上人の
意志を継承されることで
しょう。

英知上人・総代・世話
人・檀信徒が異体同心で
益々の発展をお祈り致し
ます。

永年福岡県仏教会会長
として活躍も忘れられな
い事です。

合掌

今回、日貫上人第七回忌
法要にもご列席頂きました、
一番のご親友であられた、**朝
倉市大安寺 御院首 秋吉祥
道上人**へ原稿のご依頼をし

ました所、高齢で又、体調も
あまり勝ないとのこと連絡があ
りましたので、今回は、日貫
上人との思い出のお写真を掲
載させて頂きます。



昭和 33 年 身延山での大荒行を一緒に成満された時の集合写真
最後列の左より 2 人目が日貫上人、後から 2 列目中央が秋吉上人



日貫上人（2 列目左より 3 番目）
秋吉上人（2 列目右より 4 番目）



西筑組門中寺院旅行にての写真
いつも一緒におられる日貫上人と秋吉上人

山鹿市圓頓寺住職

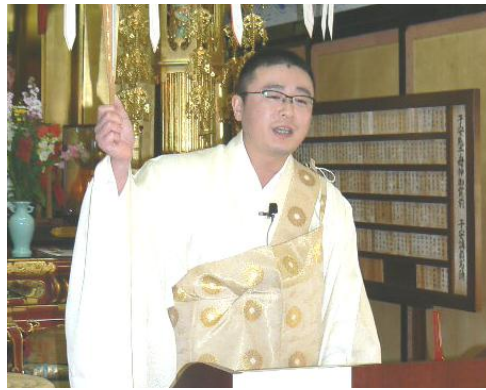
荒木英人

先般の日貫上人の第七回忌の法要に際し感じました事は、日貫上人の教え

そのものが、遷化後も妙教寺に未だ厳然と生きているさまを、目の当たりにさせられたことであります。日貫上人の法華経信仰に捧げられた一生そのものが、荘厳された本堂内陣と数多き参列者の真剣な祈りの姿に、全てが具現しているようでありました。

法華経信仰を貫くことの功德というものが、いかに威大な力を生み出すか。これを私たちに教示下さったのが、日貫上人であります。

法華経王国の顕現という壮大な理念のもと、多数の檀信徒を教化し、戦後の素末な草菴^{いちぢう}一字から、現在の妙教寺の威容ある境内伽藍へと、一代で構築された事実が如実に物語っています。



御自坊で法話をされる
圓頓寺住職 荒木英人上人

「知恩報恩をほうずべし」

『開目抄』

日蓮大聖人のお言葉です。師の恩を知り、恩に報いていくことの大切さを説かれております。残された有縁の私たちは、これか

らも日々の生活の中で、法華経修行による善根功德がもたらす真の力をそれぞれに体感していくことが、大恩ある師 日貫上人への報恩の姿となることでしょう。

皆共に、よりよい妙教寺の発展の為、今後も精進してまいりましょう。

合掌

“偉大なる予言者

御前様の思い出”

朝倉市大安寺住職

秋吉英守

私は、小学校四年生の時、信心深い母の影響を受け、妙教寺様の青年会に入りました。そのころ朝刊を配達しておりましたので、配達が終わ

るとお寺に行き御前様より私の因縁についての事でいろいろな教えをいただきました。

私の前世は漁師であったこと、そして、島原の乱でたくさんの方が海に逃げられて、私の船では全ての人を救う事が出来なかった事、そして今生にてその役目を果たさなくてはならない事。その為には僧侶となつて人々の役に立つ道を説かれました。

いよいよ高校進学歳のとなりました折、御前様から「身延山高校に進学したらどうか」という話の頃、出家得度し、試験を受けるため御前様と、父と共に身延山に参りました。

身延の東谷の坂を登っておりますと、突然師匠であります御前様が「英守、おまえは法主^{ほつすげい}猊下のお世話をする係りになるな」と、言われ、私は

法主猊下とはなんだろう、どんなことかも分からないまま入学し、本山の寮に入寮致しました。本山の寮は近侍寮、総務寮、法喜寮、清風寮、東経寮の五寮があり、三か月の指導期間を経て、上の寮すなわち近侍寮から順番に新入生を取っていくわけですが、近侍寮の先輩が三名ほしいという事で名前が呼ばれその中に私の名前があり、法主猊下という日蓮宗で一番偉い身延山の住職のお世話係りに



前住職より払子を継承された秋吉英守上人

になりました。

その時あの東谷での御前様の言われてたことが始めてわかったのです。御前様には前もってこの事が見えてあったのです。

日蓮聖人のお手紙の中に「言う事後に合えばこそ人も信ずれ」と言われておりますが、神通力とも言うべき予言を体験しました。

学校を卒業して御前様の元に帰って参りましてからは、それは言葉では言い尽くせない



「身延山総登詣団参」大本堂の前で大安寺檀信徒の皆様と記念撮影

い程のお力をいただきました。

中でも大安寺の住職と成りました事、今の嫁との縁を頂きました時も御前様に「結婚を考えている人がいます。」と唯それだけお尋ねをし、名前も、どこの誰かも聞かず「よかったな、良い人だぞ」と即答されました事には本当にビックリ致しました。

その後は嫁共々御前様の教えに導かれ今があります。まだまだ話せば切りがありません。今後は、御前様のその精神を真似事でも実践させて戴く事をお約束し、御前様に対する感謝の言葉と致します。

最後になりましたが、大安寺のお近くにお越しの折は、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

合掌

拝む 尊い 心で 品を

仏壇・仏具・寺院用具 寺院納骨堂設計施工

梅谷佛具店

本店 福岡市博多区下川端町10-9 (地下鉄中洲川端駅南口徒歩5分)
☎092-271-0456

支店 福岡市西区南船場3丁目8番4号
☎092-806-7499

〒812-0027 福岡市博多区下川端町10-9
☎0120-39-0456
TEL 092-271-0456 FAX 092-271-0464



妙教寺執事

高野英典

新年明けまして

おめでとうございます

新春を迎え、檀信徒の皆様には本年も益々「幸」多き年であられますようご祈念申し上げます。

旧年年中は当山諸行事に対しご理解ご協力頂き、心より感謝申し上げます。特に昨年十一月二十二日に執り行いました当山第五世順忠院日貫上人第七回忌法要では檀信徒の皆様より沢山の報恩塔婆の建立を頂き、上人への何よりの報恩供養となりました。

今回の「妙教寺だより」では、その日貫上人七回忌に合わせ、ご生前のご遺徳を



しのび、その思い出の一片を認めた^{した}と思います。

私が初めて御前様(日貫上人)にお会いしたのは、私が小学生の頃になります。祖母 高野タカ(後の婦人会会長)の深い法華経信仰によりご縁を頂き、その後、祖父の葬儀を切っ掛けに亡父 高野雪雄(後の総代)が当山の

昭和 44 年 2 月 10 日 初行成満お迎え時に！

亡 日賢上人、左側 御前様(日貫上人)
右側 亡祖母 高野タカ、後ろ側 亡父 高野雪雄

檀家となりました。

当山法嗣 故 日賢上人(当山第六世)大学卒業・帰山を機に青少年育成よい子の会が発足され、文化サークル(コーラス・ブラスバンド・日本舞踊・華道・茶道)に青少年を対象とした林間学校、研修会(錬成道場)等の檀信徒の子供達を中心とした青少年教化活動が活発に始まりました。当時としては寺院主催でのこのような活動は珍しく斬新なものでした。

私は、二十八歳の時に御前様の弟子にして頂きました。いつも御前様は私達弟子に「百年の大計」を立て物事を考え行動するよう教示されました。私達のように目先の小さなことで右往左

往している様を見て「君達は大変だなあ、御苦勞な事だなあ」とよく言われたものでした。

御前様の弟子教育は大変厳しいものでした、がしかし全て自ら手本を示され、厳しい中にも私達に対して慈愛の心をもつて接して頂きました。ご指導の初めはまず心を正しく保つことからでした。何事を始めるにもまず膝を交えての法話からです。そこでは三周説法を用いられました。

仏法の教えを軸に、一に「法を説き」、二に「因縁を説き」、三に「譬えの話」を入れて分かり易く、三元の法をもつて落ちこぼれが無いよう万全の配慮の中に完璧を期したやり方で個々の人から万人の人々まで救われるように、とこれを指導法



昭和 14 年信行道場訓育主任の砌。英燐上人直筆の書

の基本とされておられました。私達弟子、家族に対しても長い時間をかけ個々の能力に合わせて根気良くご指導頂きました。それが理解できて初めて、正しい心でお経を読み、施餓鬼供養をし、菩薩行(法華経王国建設)等を行うことになりました。

前にも申し上げましたよ



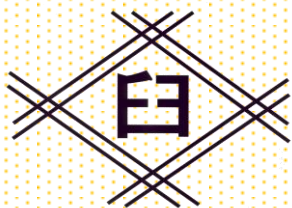
日貫上人の御師僧 藤山英燐上人
(昭和十四年に信行道場訓育主任を勤められました)

うに外での作業でも御前様は私共と一緒にスコップや鍬等を持ち、時には厳しく、気が緩み怪我をしないよう叱咤激励をし、時には冗談交じりの話をして皆を和ませ、長時間の作業で疲れた時にはお茶・おやつ・外での夜食等気を配られ、いつの間にか皆の心が一つになり、皆が御前様を中心(父)とした一つの家族となっていました。

御前様は厳しい弟子教育をされる反面、弟子家族を

自らの家族以上に大切にされ、大事にしてこられました。個々の悩みや苦しみに親身になって相談にのっていただいたりもしました。時に心得違いをした者があっても、全て「自分の不徳の致す処」と自らを戒められる事はあっても、相手を責める事無く本人がわかるまで幾度も指導を重ね、寛大な心で接して頂きました。

三十七歳、当時では中年と呼ばれるお歳で出家された当時宗門の三大名僧と言われた東公園日蓮聖人銅像護持教会主管であられた藤山英燐上人のもと、まさしく「師嚴道尊」を仏道修行の規範とし、精励心魂を傾け、三宝給仕に励まれ、まさしく「給仕第一」を実践されました。英燐上人亡き後もその行法は変わる事無く



建設業

早い仕事より確かな仕事、技術と信用の

(有) 臼 井 組

〒811-2108 福岡県粕屋郡宇美町ゆりが丘 4-3-9

TEL 092-932-7397

自らを持する事に大変厳しい御前様であられました。

私もこの血派を受け継ぐ弟子の一人として、ご指導を受けた訓育を一つでも自分のものとし、御前様の遺業の一端でも担^{にな}えることが出来るよう精進していくとともに、また、後進へ伝えていきたいと思えます。



信行会で講師を勤める
高野英典上人

最後に、御前様が晩年、当山別院において仏国土という福祉社会を目指す理想郷、「法華経王国」の建設に取り組みられました。趣意書等の書き物をし、特別な祈願施餓鬼(一日七回の施餓

鬼供養を)をされ、残り少ない時間の中この事一点に絞り誓願を立てられ数々の困難と向き合い、一心に邁進^{まいしん}してられました。

しかし、図^はらずも平成十五年十一月十八日、病に倒れ志半ばにして御遷化され、昨年(平成二十一年)七回忌をお迎えしました。

檀信徒の皆様にはこれに期に、建設途中ではありませんが、この日貫上人の魂をこめられた聖地「元寇園教会」へぜひ一度ご参詣下さい。

合掌



元寇園教会の中央部にある庭園

福岡市東区箱崎

高野 スミ子

”御前様に出会って”

私は腎臓が悪く、尿が出ず十年間も苦しみ、とうとう入院致しました。



花まつり・花御堂の前にて
有志の方と高野さん(一番左)

当時は病状も悪化し痩せ細り、歩くのも何かにつかまりながらという状態でした。このままでは命にもかかわると思い、元寇園の御前様に

お尋ねしました。

御前様がおっしゃるには、お神様は「そなたは二心をもっている、心が一つになったら助けよう」とおっしゃっているのでよく考えて出直下さい、と言われました。

私はこの病が良くなるならどんなお神様の言葉も信じよう、自分に出来る事は何でもさせていただくと思いいままでの事を大いに反省し再び元寇園にあらりました。

御前様にその事をお伝えすると、お神様が「この場で助けてやる」と御前様を通しておっしゃって下さり、その場で尿がうそのように出るようになり、身体も力がいみなぎってきました。十年間も苦しんだ事がうそのようでした。

御前様がおっしゃるには、

高野家が永年に渡り、妙教寺の印刷物等を無料で供養したり、仏法のお使い・お手伝いをした善行果徳によって助けられたものである、この事でした。勿論、その後四十年が経ちますが再発しておりません。

お神様、御前様心より感謝しております。ありがとうございました。

「御前様の「投げくじ」の威力」

ある日、元寇園に行く為待ち合わせの場所に急いで向かっておりますと、駐車場の鎖に引っかかって転倒してしまいました。頭を打ち目の上がざっくり切れ、血が吹き出して来ましたので、娘が御前様に電話をしますと「直ぐ連れて来なさい」との

事でしたので、傷口をタオルで押さえ車に乗りました。車に乗る前は頭が割れるように痛く、車に乗って大丈夫かなと思いましたが、途中から痛みがうそのようになくなりました。後で御前様にお尋ねしましたら、その時に御前様が「投げくじ」をして下さったのです。元寇園に着いて「タオルを取りなさい」とおしゃつたので取ると血がピューと飛びましたが、御前様が「くじ」を切られまして、血がピタッと止まりました。一緒にお参りに来たものは皆ビックリし、その場で感動の声をあげました。御前様のこの「くじ」の威力は私だけでなく、たくさんの方が経験されております。

南無妙法蓮華經

投稿欄



妙教寺総代

松尾 勝次

あけまして

おめでとう

ございます

新しいく健やかな年をお迎えのことと存じます。昨年は国内外ともに変動の年でありましたことは、皆様もご存じのことと思います。



清澄寺祖師堂での度牒交付式

私共、松尾家においては第一に、松尾家三男 松尾英勝（勝博）が、二月に千葉県清澄の大本山清澄寺にて度牒交付式に、師僧のお計らいのもと参加させていただきました。度牒交付を受けるにあたり、師僧はじめ、先輩僧の皆様方、檀信徒の皆さんの御支援・御協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げますと共に、松尾家一同、本人と同じ気持ちにて修行の後押しに精進してまいります。

交付式を終え、旭が森にて旭を迎えるべく、度牒生をはじめ参加者全員の一心に祈るお題目に迎えら

れ旭が見えた瞬間、お題目にも力が入り、日蓮大聖人が修行された聖地に立ってお題目を唱えていると思うと、深い感動を覚え涙した次第です。

第二に、私の母が、平成二十一年三月二十四日に



檀信徒総会で会計報告される
松尾総代

亡くなりました、享年八十九歳の生涯でした。大正・昭和・平成の激動の時代を家族の為に、一心に身を惜しまず生きて来たと思います。

生前は、山田（大野城市山田）のおばちゃん、松尾

のおばちゃんと皆様より声をかけていただいたり、料理好きで、まんじゅうを作ると、皆さんからおいしいと喜ばれていました。

三月の初め家族にて九十歳に近い母の事を考えて、今の母の身体の状態を知っておきたいとのことから病院に検査入院をさせる話をしていた矢先、母の様体が急変し緊急入院になりました。入院して三週間余り、親戚・兄弟・家族が見守る中、お題目を唱えている最中、息をひきとりました。

生前母の信念でありました、人の悪口は言わない、人の為に尽くすといったように、私も母の意志を受け継ぎお題目をもつて精進してまいります。

第三に、昨年も妙教寺護

持会活動が無事務めさせていただいたこと。

本年も、昨年より一步前進した活動と、妙教寺を護持して行くことを御宝前に誓い、前進の年にしたいと思います。 合掌

” 信行会特別講演

ご法話を聞いて ”

妙教寺修徒

高野 英一

昨年十二月二十日、恒例の信行会主催 特別講演が行われました。今年の講師は当山の正干与人でもあられる、久留米市妙正寺御住職 田中潮佑上人にお勤め頂きました。

田中上人と当山の住職 荒木英知上人（御師僧）は立正

平成 17 年度～平成 34 年度

立正安国・お題目結縁運動

“いのちに合掌”

日 蓮 宗

大学の同級生であられ、その後宗門の修練機関「信行道場」も一緒に入場され、そこでの御師僧について思い出を話されました。



特別講演の講師をされた田中潮佑上人

ほとんどの入場者が僧侶の資格を取得することを一番の目的としているのに対し、御師僧は修練を一番の目的とされ、早朝の水行から夜の唱題行まで皆の先頭に立つての三十五日間であられた事を話されました。

人は心のもち方で行いも変

わり、当然結果も変わってくることを意とされました。重ねて、私たちの心を表す十界（仏・菩薩・縁覚・声聞・天人・修羅・畜生・餓鬼・地獄）について話され、十の世界の中それぞれにも十の心（十界）があり、又、方便品第二の中の十如是（心の存在の条件）相・性・体・力・作・因・縁・果・報・本末究竟等の十の条件が備わり千如となり、これに三種世間（衆生世間（生命たるもの）国土世間（衆生の住む所）五蘊世間（色・受・相・行・識））の条件がそろい三千となると説明されました。これを『一念三千』といいます。

私はこのお話を聞き、御師僧の信行道場内での心がけや行動に学び、周りの様々な環境や条件に左右されない強い信念を持てるように自ら

を鍛錬すること、そして、そのより良い環境や条件を作り出す因果の元となる徳の種まきをする事が大事であると感じました。

田中上人は最後聴聞の皆様に對し「自らの信仰（お題目）だけではいけません。家族・友人・地域社会等周りの人達にお題目の素晴らしさを伝えていくことが大事なことですよ。」と締め括られました。

田中上人、御法話ありがとうございました。



朝勤される高野英一上人

人の安全・車の保安・真心サービス

スピーディをモットーに
民間車検・国土交通省指定整備工場

井上自動車株式会社



本社

第二工場

福岡市博多区麦野 1 丁目 1-38
電話 (581) 4607・3089 ☎812
FAX (581) 4796 -0882
福岡市博多区井相田 2 丁目 3-25
電話 571-7376

全国ネットワークのロータス優良メンバー工場

ご報告

感謝

昨年十一月二十二日に執り行いました、当山第五世・元寇園教会第四世 順忠院日貫上人第七回忌御報恩法要に合わせ、当山筆頭総代村上卯三様並にご家族一同として、日貫上人並に当山第六世・元寇園教会第三世

順正院日賢上人、両上人への報恩追善供養として、元寇園教会本堂へ「六角型人天蓋」をご寄進奉納戴きました。
ここに謹んでご報告申し上げます。
(妙教寺護持会事務局)



昨年12月17日に元寇園教会本堂に取り付けられた「六角型人天蓋」村上総代夫妻と施工者・梅谷仏具店

訃報

当山檀信徒で元婦人会会長であられました、乙金地区伊藤ツヤ子さんが、昨年十一月十五日 享年九十五歳にてお亡りになりました。

伊藤さんは、昭和五十八年四月より、前会長 故・高

原ハルミさんの後を受け約十年間の長きに亘り、当山婦人会会長をお勤め頂きました。当山における婦人会の発展はもとより、当山寺門興隆に多大なるご貢献頂きました。ご生前のご功勞に対し感謝を申し上げますと共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。
合掌
(妙教寺護持会事務局)



昭和53年5月護法団参での写真(33年前)

前列右より5人目が、若かりし伊藤ツヤ子さん(当時63歳) その左が当時婦人会会長の高原ハルミさん バスガイドさんの後が当山亡日賢上人です

行事スナップあれこれ



10/11 婦人会及び有志による
当山お会式の為お会式桜作り



9/29「立正安国論」奏進 750 年
記念大会 福岡サンパレス於
当山より 40 名の参加



11/1 船越順一さん作、一文字菊を
御奉納頂きました



10/17 元寇園教会芋掘り会
今年は少ないけど収穫できました



12/13 当山年末大掃除
寒い中約 50 名の参加があり
ました



12/6 三沢清正公堂年末大掃除
檀信徒有志合わせて 20 名参加



11/22 当山第五世順忠院日貫
上人第七回忌奉行



12/27 正月お供え用餅つき会
早朝より檀信徒約 20 名の方々
により 80 分のお餅をつきました



12/20 信行会主催 特別講演
久留米市妙正寺田中上人にお
勤め頂きました



12/17 元寇園教会に村上総代家
より寄進奉納

あとがき

八月二日

「フジヤマノトビウオ」

古橋広之進氏死去

八月二十日

第四十五回衆院選

民主党が圧勝 歴史的政権交代

十月二日

国際オリンピック委員会

リオデジャネイロを選出日本落選

九月二十九日

日蓮宗福岡県大会開催

福岡サンパレスのホールを二千三百人の檀信徒で埋め尽くす

十一月十日

戦後最高の俳優

森繁久弥死去

十一月十五日

妙教寺 最高貢献者

元婦人会会長

伊藤ツヤ子様 逝去

十一月二十二日

順忠院日貫上人

第七回忌法要奉修

御寺院二十名と約百名の檀家さん参加

百六十本の卒塔婆建立頂く

十二月十七日

村上卯三筆頭総代

元寇園教会へ

「六角人天蓋」寄進奉納

十二月二十日

信行会特別講演

久留米市妙正寺住職

田中 潮佑上人

今回の「妙教寺だより」は、

昨年七回忌を迎えられた、

当山第五世 順忠院日貫上

人の思い出を特集させて頂き

ました。

寄稿頂きました皆様へ、心

より御礼申し上げます。

今年は、いろいろな事があ
りました。

政権交代が代表語、連立
政権も、右往左往、米国と
は、信頼関係が？政治公約、
出来ないものは掲げても？
公約も誤っていました、国民
の前にそう告げては如何で
しょうか。

謝る 自分の間違いに気
づいたとき、大抵の人は「し
まった。これからは気をつけ
なければ・・・」と素直に反省
する。ところが、その間違い

を他人から責められると、

とたんに態度が豹変する。

言い訳をしたり他人のせい

したり、さらにふてくされた

り開き直つたり。なぜ素直

に謝れないのだろう。

やはり、誰もが自分がかわ

いのである。たとえ自責の

念は感じていても、他人の自

分への評価は下げたくない。

あるいは間違いを認めること

で、自分の能力不足をみず

から認めたくはない。そんな

防衛本能が思わず知らず働

いて、心に傷がつくのを防ご

うとするのであろう。

確かにそれが人情の一面

であろうけれど、やはり間

違いは間違いとして素直に

正さなければならぬ。受

けた指摘に対して頑なな態

りの響^{ひびく}を買い、次からは注
意してもらえなくなろう。

日頃お唱えしているお自
我偈にあるように「質直に
して意柔軟に 一心に仏
を見たてまつらんと欲し
て」と云うお言葉を直に受
け止めれば、難しいことでは
あるけれど、やはり間違え
た時には素直にこれを認め、
謝る。それが自分に一回り^{ひとまわ}
も二回りも大きな成長をも
たらしてくれる大事な姿勢
なのではなからうか。

御妙判の一節に

「水澄めば月うつり、鼓
を打てば響きのあるが如
しと思しめし候え云々」
とあるがごとく、心静かに生
きたいものです。

(編集委員長 植村俊親)

平成22年行事予定(1月～7月)

◎1月1日(金)

・初参詣祝禱会

午前1時より

◎1月1日～3日(金～日)

・新春三ヶ日一部経読誦会

午前8時より

◎1月11日(成人の日)

・各家勸請守護神祭

・年頭施餓鬼供養会

・開運星祭り

午後1時より

・特別講演

圓頓寺住職

荒木英人上人

午後2時より

・新春福引き大会

午後3時より

◎1月24日(第3日曜)

・寒修行会(婦人会主催)

午前10時より

◎2月7日(第1日曜)

・月祈禱祭、節分追儺会

午前10時より

◎2月28日(第4日曜)

・月施餓鬼供養会

午後1時より

◎3月7日(第1日曜)

・月祈禱祭 午前10時より

◎3月18～24日(木～水)

・春季彼岸棚経廻り

早朝より

◎3月28日(第4日曜)

・春季彼岸施餓鬼供養会

午後1時より

◎4月4日(第1日曜)

・月祈禱祭 午前10時より

◎4月11日(第2日曜)

・花まつり 釈尊降誕会

・月施餓鬼供養会

午後1時より

◎5月2日(第1日曜)

・月祈禱祭 午前10時より

◎5月30日(第5日曜)

・各家勸請守護神祭

・月施餓鬼供養会

・平成22年檀信徒総会

午後1時より

◎6月6日(第1日曜)

・月祈禱祭 午前10時より

◎6月27日(第4日曜)

・月施餓鬼供養会

午前11時より

・清正公第四百年遠忌法要
(午後1時より予定)

◎7月4日(第1日曜)

・月祈禱祭 午前10時より

◎7月25日(第4日曜)

・土用丑秘法灸大祈禱会

・月施餓鬼供養会

午後1時より

◎毎月第1日曜日は

・信行会 (12時より)

・三沢清正公堂お参り

(午後より)

《御霊屋・納骨堂 加入者募集》

○近代的格調高い

○耐久性にすぐれる

○御先祖様をおまつりするのに
相応しい荘厳な佇まい

※一時払い不可能な方は、分割払い制度をご利用下さい。
※詳しくは、お寺又は護持会事務局までお問い合わせ下さい。

春日山 妙教寺 092-581-1266

発行所 非売品

大野城市錦町二丁目一番二七号

春日山 妙教寺

〇九二(五八二)一二六六